

5日、「彦・愛・犬の会」が申し入れ 署名7,255筆

西高をつぶす理由はない

この夏休みに23日間にわたる行動を展開した「彦根・愛知・犬上の高校を守る会」は、9月5日、河原教育長・嘉田知事に高校再編原案の白紙撤回を申し入れました。同会は、ずっしりと重い厚さ30cmに及び7,255筆の署名を手渡しました。短期間での多数の署名集約は、彦根地域の統廃合に対する思いが、昨年以上に高まっていることを示しています。申し入れは同会の竹腰さんと八田さん。「県立高校の統廃合を考える会」の瀧上さんと杉原さんが同席しました。



溢れた生徒はどこへ行けばいいのか

竹腰「彦根市では子どもが増えるのに、西高を減らせば生徒はどこへ行けばいいのか。路頭に迷う子どもが出ることを心配している。少人数の方が教育効果が上がる。『西高に来てやっと自分の居場所を見つけた』と言っている生徒がいる。西高の『学びの共同体』のようなとりくみを大事にすべきだ。学校を減らすのではなく35人学級にすべきだ。教育のお金を削っていいことはない。」

ほとんどの人が抵抗なく署名してくれる

八田「自分が西高に30年間つとめた個人的な思いもあるが、それだけでなく、市内を署名に回ると、他とは違い、この署名は、ほとんどの人が抵抗なくしてくれる。126年の歴史と伝統があり、今もがんばっている。子どもが減ったり、お金がなくてどうしても学校を減らさなくてはならない時には、統廃合の対象になるのも仕方ないが、そんなことはない。何故、西高が統廃合の対象になるのか、どうしても分からない。」

河原教育長「.....子どもの数は20年間ずいぶん減ってきた。魅力と活力ある学校づくり、子どもたちのことを考えて、皆さんの意見を聞いて計画案を考えている。彦根は生徒が増えると言うが、生徒数は全県や湖東全体で考えている。生徒募集定員は問題が出ないよう総合的に考える。」

竹腰「魅力と活力。今、教育長が言ったことと西高をなくすことは矛盾する。子どもたちのためというのなら、少人数で丁寧にすすめる西高のような学校が大事だ。」

教育長「.....魅力と活力ある学校。子どもたちのことを考えて.....」

子どもが増えるのに何故

考える会「中卒生は数年後には150人増え、15年後には120増え、3クラス増やさなければならない。その時に3クラス減らす理由は何か。学びの共同体は、県議会で知事も全県に広げてほしいと言っているのに何故西高をつぶすのか。この2つを答えてください」

教育長「.....皆さんの意見も聞きながら、原案を修正しながら案を検討している。」

9月中旬に計画案を発表するのか

考える会「当初予定通り9月中旬に計画案を発表するのか。」

教育長「.....」

八田「長浜では第2次提言を急いで出すとしており、その前に原案を出す訳にはいかないでしょう。」

教育長「.....今、色々なことを含めて検討している。」

県教委は9月中旬に再編原案を発表するとしています。しかし、長浜市が第一次提言に続いて、第2次提言を9月中に提出する模様です。少なくとも、これを無視して、県教委が再編案を提案することは許されません。また、県教委は、急遽、「長浜高校の福祉学科をなくす」動きを表面化させています。統廃合のためなら何でもする。県教委のなりふり構わない姿勢は、新たな反発を招いています。

ストップ高校統廃合速報 2012年度第17号

2012/9/6 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)